

身近な福祉用具のご提案

金沢福祉用具情報プラザ



金沢福祉用具情報プラザでは、様々な福祉用具の展示や、住宅改修のモデルを設置し、各種相談に応じています。今回の金沢市社協情報では、認知症と福祉用具にまつわるお話として、実際にプラザに寄せられたお話を紹介します。その人らしい生活を支えるために、福祉用具を活用するという方法もありますので、福祉用具に関する相談は金沢福祉用具情報プラザまでお問い合わせください。

徘徊と向き合う ～位置探索装置～ の活用



私の父はアルツハイマー型認知症を患って10年を越えました。

発症して数年後から、「やることがない、できないことがない」という理由からか、外を出歩くようになりました。長年仕事を続けてきた父にとって、時間を持て余すのは大変な苦痛なのでしょう。

さらに時が経つと、生まれ故郷に帰ると言って外出するようになりました。この頃には、故郷の方角に向かおうとはするものの、途中で道がわからなくなり「迷子」になることが増えました。警察や福祉関係者に捜索をお願いするようになった頃でもあります。

家族がずっとついて歩けばいいのかもしれませんが、それができませんでした。例えば警察の方に連れて帰っても、その数分後にまた出かけようとするのです。背筋が寒くなったのを覚えています。

また、随行を何度も試みましたが、「なぜついてくるのか？」と警戒心を抱かれることが多く、躊躇してしまいます。

純真に「外出したい」という父に対して、「外出するな!」という発言は、不信感を招くようです。専門職の方であれば、上手に気をそらすような言葉かけができるのかもしれませんが、家族としては毎回対応する力が続きません。

そんな時、徘徊位置探索装置の存在を知りました。

携帯電話に近い大きさ・重量のGPS端末を衣服のポケットに携帯させておけば、自宅のパソコンや携帯・スマホ等で現在位置を地図アプリで確認できるものです。

しかし、元々ポケットに何かを入れる習慣がない父に、常時携帯させるのは難しいと思われました。

その後しばらくして、靴のインソール下にGPS端末を収納できるタイプの位置探索装置の情報を得ました。父や我が家の生活状況に適合するのではないかと、という勘が働き、発売と同時に入手しました。

それから、現在まで使用し続けています。これがあるから、すべて安心というわけではありません。外出先でどのような事故に遭わないとも限らず、他人様に迷惑な行動をしている可能性もあります。

しかし、一番の効果は家族の不安感の軽減です。いつでも迎えに行けるという安心感です。この安心感があるから、今の生活を維持できます。

2015年現在、金沢市では公的補助の対象にはなっておらず、商品入手にかかる実費負担と毎月の使用料の負担は大きいです。いつの日か、公的補助の対象になることを願ってやみません。

大切な父と共にこの家で暮らしていくために。

寄稿者:S